

沈丁花



北地域後援会は我孫子1~4・久寺家・台田・つくし野・並木・根戸・布施のエリア

しらかば北

発行責任者
井上文夫

「新春のつどい」に 白石ちよさんが登場

2月7日、日本共産党我孫子市の党と後援会による「新春のつどい」がありました。会場いっぱい約50人が参加し、日本共産党の躍進を誓い合いました。

来たる7月の参院選挙において、千葉選挙区から出馬予定の白石ちよさんが登場し、初めてお目にかかる人たちも多く会場が沸きました。白石ちよさんは昨年の衆院選挙で、千葉2区から出馬し、自民党候補との一騎打ちで得票率約32%を獲得しました。予想外の善戦に自民候補を心胆寒からしめ、「当確」が出てもあまりのショックにお決まりの「万歳三唱」はなかったそうです。



左から 吉松千草さん・白石ちよさん
齋藤和子さん・中村良雄さん

白石ちよさんは49歳の新進気鋭のママさん候補者です。シングルマザーだった時代には複数のアルバイトを掛け持ちしたり、准看護師として県立病院で働きながら、お子さんたちを育て上げました。その頃の苦労を、ユーモアを交えながら明るく話す白石ちよさん。「私が参院議員になったら、同じような苦しみを味わっている人々を助けるために精一杯頑張ります」と力強く発言しました。続いて、我孫子の共産党後援会を代表して中村良雄さんが「来た参院選では、なんとしても白石ちよさんを当選させるために頑張ります」と訴えました。

また元衆院議員の齋藤和子さんも参加して、「自公政権が過半数割れとなった新しい政治プロセスを前に動かし、『国民が主人公』の政治に向かわせるためには、日本共産党の躍進がどうしても必要です」と歯切れ良い言葉で発言しました。

集いの合間には、女性後援会の人たちが歌声を聞かせ、合唱を指導して会場を楽しくなごやかな雰囲気になりました。(井)

世界で最初に飢えるのは日本なの!!

世界で最初に飢えるのは日本なの!!

コメ不足、高騰に、みんな不安を高めています。こうした思いにこたえた鈴木宣弘先生の講演会は、会場がいっぱい緊迫感のあるものでした。私も、固唾を飲んで聞き入りました。印象に残った話は次の点です。

1つは、「日本の食料自給率は種と肥料の海外依存度を考えたら10%に届かない」「物流停止になれば、日本人の6割が餓死するという推定は大袈裟でない」「千葉県の自給率も24%に過ぎない」との衝撃的な現状。

2つは、「いまやお金を出せば輸入できる」は通用せず、「不測の事態に国民の命を守ることに『国防』とすれば、国内の食料・農業を守ることが国防の要、安全保障」。

3つは、日本政府が農業を軽視するのは、アメリカの意向。自給率を上げて国民の命を守ることは、アメリカからの輸入を減らすことになり、政治家も官僚もやろうとしない。第2次安倍政権の際、農水省の官僚が「日本の農業がだめになる」と意見したら、菅官房長官(当時)に報復人事で更迭された。「どうして頭のいい官僚たちが、この危機に黙っているの?」という私の謎が解けました。

では、私たちに何ができるのか。「頑張っている農家のみなさんを応援する」「学校給食などに、地元の農産物を利用する」「産直のものを買い食べる」ことなど、できることから努力したいです。(岩切)



鈴木宣弘氏の講演会は会場いっぱい

日本共産党我孫子市議団のホームページのサイトは <https://jcp-abiko.com/>です。スマホのQRコードはこちらから。→



花火

2月23日、国技館で開催される恒例の「5000人の第九コンサート」を聞きにいきました。今年で58回目。通常土俵となる中心の位置に日本屈指のオーケストラ、指揮者、ソリスト4名が陣取り、全国から応募した老若男女5000人の歌い手が客席の半分を占め、残りの半分が聴衆の席になります。「第九」とは言わずもがなベートーベン「第九番」です。今年のテーマは「第九でつなごう 世界の輪」

テーマには、ガザやウクライナで起きている戦争という名の暴力を一刻も早く終わらせよう、そして世界中に広がる対立と分断と憎しみをなくそうという強い願いが込められていると思いました▼ベートーベンが「全人類は協調して平和を実現しよう」と願った合唱付きのこの曲を、オーケストラ、ソリストと共に、5000人が歌い上げる迫力は圧巻でした。「相抱かれよ、何百万の人々よ!この接吻を全世界にあたえよ!...」のフィナーレで、最高潮のうちに演奏が終わりました。私を含め1万人の参加者たちは「戦争は絶対にしてはいけない」という強い思いにかられたのではないのでしょうか。「音楽には平和を求める人々をつなぐ力がある」と納得しました。(井)

ソウルを旅して

3

渡辺誠二

(前号より続く)

旅行3日目は地下鉄を乗り継いでトンニムン駅(独立門駅)へ地上に出るとソデムン独立公園です。入口にある独立門は、1898年にそれまで中国明の使節を迎えるために建てられた迎恩門を撤去して、独立協会が自主独立のシンボルとして建てました。公園内には3・1独立宣言記念塔、3・1独立運動に立ち上がり西大門刑務所で18歳で亡くなったユ・グァンスン烈士像があります。

訪問のメインは「西大門刑務所歴史館(写真)です。すると(65歳以上は無料です)受付の方が日本人ですかと聞かれ、日本語ガイドがいるので案内すると言ってくれました。ボランティアが日本語で施設を案内してくれました。



日本が1908年に「京城監獄」として造り、独立運動や植民地支配に抵抗した韓国・朝鮮人が投獄され、野蛮な弾圧が行われてきた。入口でパスポートを見せて

閉じ込める拷問部屋、

各種拷問用に日本が造った監獄で、ユ・グァンスンのように未成年者も野蛮な弾圧を受けました。日本帝国主義の侵略!

植民地支配の残酷さがよく分かる施設です。答刑(ちけい)を初めて知りました。

歴史館をあとにして、「重明殿」に向かいました。支庁駅で地下鉄を降り徳寿宮(トクスグン)を通って重明殿へ。ここは1905年の「乙巳条約(第2次日韓協約)が締結された場所です。

締結された場所が再現されています。伊藤博文、林権助、大韓帝国側から李完用など閣僚たちの調印するシオラムがあり、韓国の歴史における「悲運の場所」と位置づけられています。

これにより大韓帝国の外交権は日本が代わりに持つことになり、独立国としての外交権を奪い、統監を設け大韓帝国への内政干渉を強めます。この時、重明殿は武装した日本軍と警察に包囲されていました。重明殿については韓国「文化財庁」の日本語パンフにあります。

1次、2次、3次の日韓協約、そして韓国併合の歴史、それに対する韓国の人々の抵抗運動が激しく起こり、それへの弾圧施設として「京城監獄」ができたことがこの旅で分かりました。

(終わり)

東日本大震災から14年が経った。震災時の津波の恐ろしさを今も覚えている。

宮城県気仙沼市唐桑半島の海岸に津波によって海底から打ち上げられた巨岩があると知って、震災数年後に唐桑半島の津波石を見に行った。

「神の倉の津波石」と名づけられた岩は直径約5メートル、重さ150トンと推定される巨岩だった。この巨岩が津波によって入り江に打ち上げられたのである。

津波のエネルギーに驚愕した。(竹内)

私の写真館

唐桑半島の津波石



「北」地域の情報

つくし野2丁目側溝工事が完了

昨年、つくし野在住の吉田さんから「車椅子を安心して利用するために」という投稿がありました。早速吉田さんご夫妻と共産党地域支部。後援会、船橋まさる議員とで実地調査しました。(しらかば北7月号掲載) 船橋議員が市道路課に道路修理を折衝。歩道の凸凹は9月に修理完了。今年2月つくし野2丁目の側溝修理が完了しました。



右の写真が修理前の破損がひどい側溝。左の写真が修理完了した側溝。



あなたの声を お寄せください

日本共産党は、一人ひとりの暮らしの不安、お困りごとの解決のために、全国でアンケートを実施しています。みなさんから寄せられた声をふまえて、党の政策をつくり、実現をめざして頑張ります。

アンケートは、1「暮らしの実感を教えて下さい」2「どんなことに暮らしの不安を感じていますか?」3「政治の課題だと感じていることは?」4「日本共産党と『しんぶん赤旗』についての印象の4項目です。